



視点

全国夏期セミナー 沖縄でお会いしましょう！

2000年7月に長崎で開かれた第19回全国夏期セミナーの1日目。当時大学院生だった私は、会場のホールの座席に座り、演台に立つ高里鈴代さんの話を聞きながら、はずかしさに襲われていました。沖縄の女の子たちや女性たちが、米軍兵士による性暴力の被害に遭う危険に毎日さらされながら暮らしていることを、高里さんの講演を聞くまで知らなかったからです。高里さんのお話が聞けてよかった、性教協のセミナーに参加して本当によかったと、強く思いました。

それからだいぶ経ってしまいましたが、2014年3月に、学生や同僚と一緒に、北は東村の高江から南は南城市の荒崎海岸まで、限られた日数の中でできるだけ訪ねて学ぶ旅をしました（西田昌司参議院議員による問題発言のあったひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館にも行き、亡くなった方々一人ひとりのお名前と写真を見ながら涙しました）。それで少しは無知であった状態から抜け出せたように思ったものの、2019年1月に沖縄で開かれた理論と実践講座で再び高里さんの講演を聞くことができた際には、どれだけ歴史と今をわかっているのかという問いを改めて突きつけられたように感じました。

そんな私が沖縄で開かれる全国夏期セミナーの大会実行委員長など務めてよいのだろうかという疑問が、セミナーの準備を進めている今でもあります。と同時に、沖縄での初めての開催という、性教協の歴史における重要な時・場に行き実現委員として関わることができることを、幸せにも感じています。

今回高里さんは、シンポジウムで安里瑞穂さんともにお話くださいます。安里さんは障害児教育に取り組みながら、辺野古の新基地建設に反対するカヌーのチームに参加してこられました。高里さんとは日頃からフラワーデモで会っていらっしゃるというご関係にあります。障害児教育、性教育、新基地建設反対運動とフラワーデモが「その人らしく豊かに生きること」（2020年11月29日民主教育研究所全国教育研究交流集会『性とジェンダー平等の教育』分科会での安里さんの言葉）という点でつながっていることを、安里さん

は日々の実践から示していらっしゃいます。シンポジウムのコーディネーターである長香織さんの沖縄への思いも深く、今年5月に石川支部が主催した石川セミナーに参加して沖縄女性史研究家の宮城晴美さんの講演を聞いていらしたとうかがっています。尊敬するお三方によるシンポジウムがとても楽しみです。

記念講演の講師である齊加尚代さんのお話は、私はこれまでに2回聴く機会があり、そのたびに目を開かされてきました。今回は沖縄の地でお話しされるという、いっそう貴重な機会となります。沖縄にこだわった研究をしてこられた浅井春夫さんの理論講座から、しっかりと学びたいです。もちろん、模擬授業・分科会の内容もどれも大切に、参加を申し込んだ方はどれに参加するか迷われたことと想像します。

今回の全国夏期セミナーのもう一つの目玉は、オプショナルツアーです。現地実行委員の安里邦夫さんが、基地問題と県民生活について考えるツアーを計画してくださっています。募集人数に達したため既に申し込みの受付は終了しましたが、せっかくの機会ですので、参加できない方もセミナーの前や後に旅をしていただき、お話を聞かせていただけたらうれしいです。

そして…全国夏期セミナーの楽しみといたら、食事ですよ！私は上述の学生・同僚との旅で入ったコザの丸仲というお店の「チキンアドボ」が気に入って、そのあと沖縄生活指導研究会の学習会のために沖縄に行った時にも食べました。いまは、前に一人で対馬丸記念館に行った際に通りがかった「高良食堂」が気に入っていて、今回行けたらなと思っています。

たくさん学んでたくさん楽しむ時間をみなさまと一緒にできることを、心待ちにしています。



杉田 真衣
(性教協幹事・第44回全国夏期セミナー
沖縄大会実行委員長)